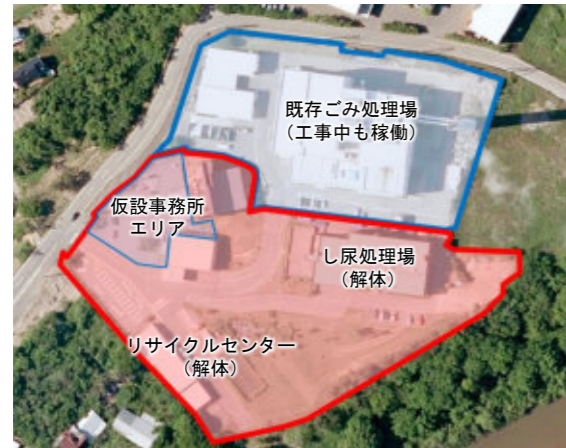


3 施設の配置

クリーンセンターかしわざき敷地内

(し尿処理場、事務所棟、資源物リサイクルセンター等を解体した用地)



令和7(2025)年度～令和8(2026)年度

- 仮設事務所を設置し、既存ごみ処理場の機能を確保
- し尿処理場やリサイクルセンター(赤枠エリア)を解体撤去し、新ごみ処理場建設用地を確保

令和8(2026)年度～令和10(2028)年度

- 既存ごみ処理場を稼働させながら、新ごみ処理場を建設
- 新ごみ処理場稼働後、既存ごみ処理施設のほか仮設事務所など撤去(令和11(2029)年度以降)

※ リサイクルセンターは、既存のごみ処理場の解体跡地に設置し、再開する予定

4 事業スケジュール

	令和6年度 (2024年度)	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
事業者選定		●事業者決定				
主な既存施設・設備						
既存ごみ処理場	[Yellow bar from R6 to R10]					
資源物RC・し尿処理場 など	[Yellow bar from R6 to R7]					
仮設施設・設備		[Green bar from R7 to R11]				
新ごみ処理場		[Blue bar from R8 to R10]				供用開始

5 事業方式

公設民営(DBO)方式を採用し、設計、建設、20年間の運営業務を一括で発注します。

DBO方式を採用することで、事業者のもつ豊富な専門的知見、創意工夫を最大限に活用した、柔軟な提案を取り入れた効率的な建設・運営事業を実現します。

6 パブリックコメント(意見募集期間は終了しました。)

市では、実施方針及び要求水準書(案)の作成を進めています。最終的な調整を行うため、事業者には、実施方針及び要求水準書(案)を公開します。市民の皆様には、パブリックコメントにおいて御意見をいただくこととしております。

- 意見の募集：期間 令和6(2024)年1月24日(水)～2月22日(木)
- 資料の閲覧：市ホームページのほか、クリーンセンターかしわざき、市役所4階 環境課、市役所1階 市政情報コーナー、地域事務所(高柳・西山)、市民プラザ、ソフィアセンターにて閲覧できます。

新ごみ処理場整備・運営事業の概要について

柏崎市市民生活部 環境課

新ごみ処理場については、平成28(2016)年度からこれまでに、環境へ与える影響の調査や、ごみ質・ごみ量の推計、施設の規模など、建設に係る検討を重ね、令和6(2024)年度には、事業者選定の手続きを開始いたします。

つきましては、日頃から市の廃棄物行政に特段の御理解、御協力をいただいております近隣町内会の皆様に、これまで検討してきた事業の進捗について、概要を御説明いたします。

1 新ごみ処理場の整備方針

(1) 循環型社会を推進する施設

ごみ分別の強化やごみ焼却後の灰を資源物として回収するなど、より一層のリサイクルを推進する施設
ごみ焼却による排熱を発電等に利用し、エネルギーの循環を推進する施設

(2) 市民が身近で安全・安心を感じられる施設

最新の設備を導入し、環境基準より厳しい独自基準をクリアするクリーンな施設
耐震性を確保し、停電に強く、災害時の補助避難所機能を備えた施設

(3) 高効率なエネルギー回収を可能とする施設

ごみ焼却の排熱を利用した、蒸気タービンによる高効率な発電が行える施設
エネルギーの地産地消として、余剰電力の市内供給を目指す施設

(4) ふるさとの環境を守る施設

小学生の施設見学をはじめ、環境について学べる施設

(5) 経済性に優れた施設

今後の廃棄物発生量に合わせた効率的な規模や設備の配置をすることで、経済性に優れた施設

2 施設概要等

区分・概要		設定の考え方
エネルギー回収型廃棄物処理施設(焼却施設)	処理対象物	<ul style="list-style-type: none"> 燃やすごみ、可燃残渣 ボランティア清掃ごみ 剪定枝及び庭の草 災害廃棄物
	炉形式	ストーカ式焼却炉
	施設規模	80t/24h (40t×2炉)
マテリアルリサイクル施設(粗大ごみ処理施設)	処理対象物	<ul style="list-style-type: none"> 不燃ごみ 粗大ごみ
	施設規模	6.7t/5h
関連施設	計量棟・管理棟・洗車棟・会議室・見学通路・駐車場・構内道路・構内サインなど	<ul style="list-style-type: none"> ごみ処理に必要な施設を整備するほか、環境問題を学べる拠点として、施設見学通路や環境学習機能を備える

近年のごみ処理場整備事例（新ごみ処理場のイメージ）

概要

- 同規模の他事例の施設を掲載
- 近年、周辺への圧迫感を感じさせないため、地上部付近は濃目の色調、高い位置は白をベースとした色調とすることが多い

本市の整備仕様

- 周辺景観と調和を図った圧迫感のない形状や色彩に配慮した外観デザインとする
- 外観の色彩は、受注後に建設事業者が複数案を提案、市と協議して決定



江戸崎地方衛生土木組合
ごみ処理施設（茨城県）70 t/日



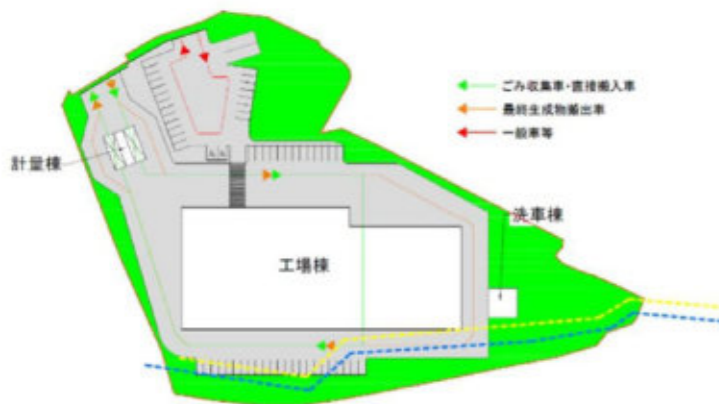
若狭広域クリーンセンター
（福井県）70 t/日



クリーンセンターいず
（静岡県）82 t/日

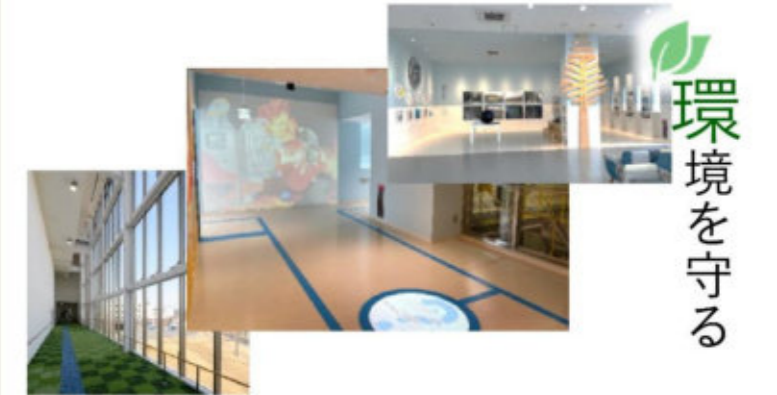


もりやまエコパーク環境センター
（滋賀県）70 t/日



柏崎市全体配置イメージ図

見学者・一般来場者用スペース



展示・情報コーナー

環境施策に関する情報提供を行う。
情報端末で、各設備の運転・監視を行う中央制御室のモニター画面を閲覧できる仕組み等を導入。



研修室

環境教育や施設見学等の際に使用。
災害時には、施設内に滞在する職員と見学者が滞在する空間として利用。